

第31回 NPO 法人 日本ベッグ矯正歯科学会大会（新潟） 症例展示について

症例展示は、展示発表する方自身が治療された症例に基づいて、座長のもとに討論を行います。提示する症例は下記の要領にしたがって準備してください。

「症例展示要項」

1. 展示症例について

症例は動的治療が終了した症例とします。症例の不正咬合の種類、治療法は問いませんが、発表者が自分の矯正臨床能力を十分に表現できるものを用意してください。

また、複数の症例を展示される場合は、類似する症例や特殊で稀な症例は避け、矯正治療技術の全体がわかるような症例を用意してください。

2. 当日の持参資料および当日の発表について

矯正治療開始時および動的治療終了時の1) 口腔模型、2) 口腔内写真、3) 顔貌写真、4) 口腔内 線写真、5) 頭部 線規格写真など資料を用意してください。

なお、治療経過を示す資料がある場合、あるいは保定終了時の資料がある場合には参考資料として持参してください。さらに、頭部 線規格写真はそれぞれのトレースを添付し、それらの分析結果および治療前後のトレースの重ね合わせを用意してください。

当日の発表は、まず症例の概要に関する解説説明および考察を、実際の資料（模型等）を用いて10分程度で行ってください。次に会場からの質疑応答を座長のもとに約5分程度行います。結果に関しては、座長が各展示発表の評価を記載し提出します。

3. 資料作成にあたっての注意事項

下記の模型以外の資料をA4判のファイルに整理して展示してください。

- 1) それぞれの資料には、資料採取の年月日を記入してください。
- 2) 口腔模型は、咬合状態がわかるように水平模型（複製も可）の状態のものを持参してください。
- 3) 口腔内および顔貌写真は、プリントしたものを用意してください。
- 4) 線写真は、オリジナル（原型）あるいは複製したものを用意してください。
- 5) 頭部 線規格写真の分析およびトレースの重ね合わせは、治療前後及び保定時の変化をまとめて記述してください。重ね合わせは、S-SN基準で全体変化を観察し、ANS原点と口蓋平面で上顎骨上の変化を表現し、メントン原点と下顎下縁平面で下顎骨上の変化を表現してください。

症例展示用記録用紙は、提出症例記録簿を使用してください。お申込み受付後、郵送いたします。

なお、記載は黒インクの楷書記入、またはパソコンで行ってください。